

羽田発着枠政策コンテストにおける取組の評価検証に係る懇談会 議事要旨

日時：平成29年9月13日09:00～10:50

場所：合同庁舎2号館16階国際会議室

委員からの主なご質問・ご指摘：

【鳥取空港】

- ・石見空港と連携するとのことであるが、実感からするとかなり遠い。具体的に、どのように誘客していこうと考えているのか。
- ・但馬地域の人々は一旦西に行ってから羽田に行くことになり、但馬地域からの誘客は厳しいのではないかと。
- ・米子と鳥取空港利用者は、当該地域を目的地としない旅行者が多い。圏外流出してしまう旅行者をどのように取り込んでいくのかが重要。
- ・リピーターがどれくらい増えるかがポイントである。
- ・山陰全体として客を取り込むという広域的観点が重要である。
- ・キャンペーンの戦略はしっかり持つべきである。
- ・鳥取市の外に旅行客が流れてしまっている。これについてどう考えているか。
- ・東京に滞在している外国人旅行客をどのように誘客するのか。また、首都圏発の旅行商品について、どうやってプロモーションするのか。いずれも工夫が必要。
- ・外国人の国内移動は陸路が多いため、鳥取空港を使ってもらうには工夫が必要。

【萩・石見空港】

・旅行会社に商品販売促進のためのインセンティブをつけることは、良い方法かは疑問がある。インセンティブ制度の助成によって旅行商品の価格を下げることは、航空会社がキックバックを拠出し値段安くすることと変わらない。直接消費者にメリットがいくような方法や用途を限定した助成とするのがよいのではないか。

・石見銀山の集客力が落ちている。観光地では、ガイドも重要な要素である。人材を育成するには時間がかかるので、それよりも、人材を見つけて来た方がいいのではないか。

・個人旅行対策が必要。海外からのインバウンド対策については良い取組になればと思うが、基礎的・実践的なデータの収集・分析が重要。データがしっかりと、どのタイミングでどのような情報をぶつけていけばよいかわからない。科学的な目でチェックしてほしい。

・島根県立大学との連携は非常にすばらしいものだと思う。これからもしっかりと進めてほしい。学生が提案したものが、商品になり実際に実績を出したり、学生自身が路線を使ったりすることは、非常に重要だと思う。将来の航空需要に繋がることの検討が必要。

・アウトバウンドに比べインバウンドの需要が伸びていない。これは首都圏からの需要が伸びていないのか、広域ルートの効果が出て別空港から入ってくるケースが増えているということなのか。

・旅行会社へのインセンティブ助成の導入が今年度の旅客数増加の主たる要因だと考えられる。本制度導入により、旅行会社がどのような施策を実施し、旅客数増加に結びついたのか、分析が必要である。

・対策会議を新たに設けているが、どのような広域的連携プランを打ち出せるかが課題である。他の自治体・団体とうまく連携していくため、工夫が必要である。

・新しい魅力的な商品を継続的に出していく仕掛けが必要である。

以上